

順化が必要な猫を室内飼いするために

外での生活が長くかつ人に馴れていない猫を室内で飼育するには、環境に慣れるまでに半年～1年以上かかることもあります。それから人に馴れるまでにはさらにかかる場合もでしょう。この場合、慣れさせようと頑張るのではなく「この子には慣れる力がちゃんとある」と信じて焦らず気長に向き合う気持ちが大切です。

●まずは必ず完全ケージ飼いを行いましょう。

保護したその日から高さのある猫用ケージで完全ケージ飼いをしてください。最初は高い声で鳴き続けたりトイレをひっくり返したりと必ず暴れます（特に夕方～朝方）が、次第にケージにも慣れてきます。それまではケージから一切出さずにお世話をします。ケージは静かな場所に設置し、最初から過度に関わりすぎないことが大切です。1ヶ月～半年以上、完全ケージ飼いが必要な場合もあります。早急にケージから出してしまうと家の中で野良猫状態になってしまい、人馴れまでにさらに時間がかかってしまうので注意が必要です。

●速やかに不妊去勢手術を行いましょう。

「手術をすると気が強くなる」と心配される方もいますが、不妊去勢手術は必ず行いましょう。室内飼育において、メスの発情による鳴き声やオスのマーキングを抑制することはとても重要です。病院に連れて行くときは洗濯ネットに入れると脱走防止にもなり、病院でも処置がしやすくなります。

●視線を合わせず淡々とお世話をしましょう。

警戒心が緩むまでは目を合わせずにお世話をすることも必要です。日々のエサやりとトイレやケージの掃除を淡々とする作業は、きれい好きな猫に安心感を与え自分にとって必要な存在であることを伝えるのに有効です。

●ケージの中で触れてみましょう。

少しずつ警戒心が緩んできたら、ケージの中で触れてみましょう。基本的に猫は触られることが苦手な動物です。まずは手の甲を当ててみたり、ブラシや羽・猫じゃらしなどのグッズを使って優しく触れてみてください。また食べることが好きな猫であればおやつをスプーンなどであげたり、次第に手から食べてもらうよう誘導するのも良いでしょう。ただし嫌がる場合は決して無理をしないでください。数分でも毎日少しずつ触れる時間をとってみてください。

ゆっくりと時間をかけて「人の手は恐くない」ことを伝えて行きましょう。



●段階を踏んで関わって行きましょう。

自信を持って触れられるようになってから初めて、少しずつケージの外に出してみましょう。馴化に適した時間帯は、猫にとって警戒心が緩む夕方からがおすすめです。そして関わった後は必ずケージに戻しましょう。すでにケージは猫にとって安心できる場所になっています。不安や興奮を落ち着かせるために、ケージに戻すようにしましょう。

【タイプ別の関わり方の例】

<引きこもりタイプ>

タオル（洗濯ネット）や布製のちぐらなどを使って優しく抱っこをしてみましょう。そのとき無理に撫でようとせず、呼吸を合わせる程度で構いません。また長時間続ける必要ありません。嫌がるようであればすぐにケージに戻してください。



<活発・遊ぶことが好きなタイプ>

猫じゃらしなどを使ってケージの外に誘導し思いっきり遊んであげましょう。一緒に遊ぶことで運動量が増え発散し警戒心が緩んでいきます。ただし遊んだ後は興奮していますので必ずケージに戻して落ち着かせてください。



<食べるのが好きなタイプ>

おやつなどでケージの外へ誘導してみましょう。ケージの外で食べているときに背中などを撫でてみると良いでしょう。可能ならそのままおもちゃなどで遊んでみてください。ケージに戻す時もおやつを使って誘導しましょう。

個体差はありますが、1ヶ月～数ヶ月は猫を出す場所はケージを置いた部屋に限定し、また部屋で関わった後は必ずケージに戻すようにしてください。エサをあげるときや寝るときもケージに戻しましょう。馴れる前に家中を自由にさせすぎると、**家の中で「野良猫」状態**になってしまいます。室内で安心できる場所を見つけられず、人との距離がなかなか縮まらないため、懐くののにさらに時間がかかってしまいます。その場合、もともと外で生活していた猫は、外へ行動範囲を広げようとするため、脱走の原因になります。ゆっくりと時間をかけて、室内で少しずつ自由にできる部屋を増やしていくことが理想です。

●その他

- 家族が複数いる場合、最初は一人がじっくり向き合いお世話するのが良いでしょう。その人に猫が懐いてきてから他の家族も関わるようにすると家族全員に心を開くのが早くなります。
- 人馴れしていない猫は他の動物には心を開きやすい子もいます。先住動物がいる場合は合わせてみてその子の力を借りてみるのも良いでしょう。
- 外での生活が長かった場合、まれに外に出れないことがストレスで病気になってしまう猫もいます。この場合、首輪やハーネスをつけて外に出してあげるのも良いでしょう。ただし必ず飼い主がともに行動してください。

